

第9回外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での
学習到達目標設定に関する検討会議
2014.1.10(於:文部科学省)

CEFR準拠の英語到達基準JS
「ジャパン・スタンダード」の策定
グローバルな英語コミュニケーション能力の
基準を求めて

～**JS**の開発・検証および現場実践～

明海大学外国語学部 川成美香

kawanar@attglobal.net

正式名称

「ジャパン・スタンダード」(略称JS)
Japan Standards (JS) for Foreign Language Proficiency, based on CEFR

「CEFRに準拠した外国語運用能力の日本スタンダード」

研究の背景

科学研究費補助金基盤研究(B), 2010-2012

**「外国語コミュニケーション能力育成のための日本型
CEFRの開発と妥当性の検証」**

研究チーム:

- 代表 : 川成美香 (明海大学)
- 研究分担者 : 岡 秀夫 (目白大学, 東京大学名誉教授)
笹島 茂 (埼玉医科大学)
- 研究協力者: 吉田章人 由井一成 相澤美希
中谷恵子 (日本女子大学附属高等学校)

藤原真知子 (聖学院大学・聖学院小学校)
- 海外アドバイザー: Prof. & Dr. Sauli Takala
(ユバスキュラ 大学名誉教授 (Finland))
EALTA前会長 (European Association for Language
Testing and Assessment)
ECML顧問 (the European Centre for Modern
Languages)

JSの基本構想

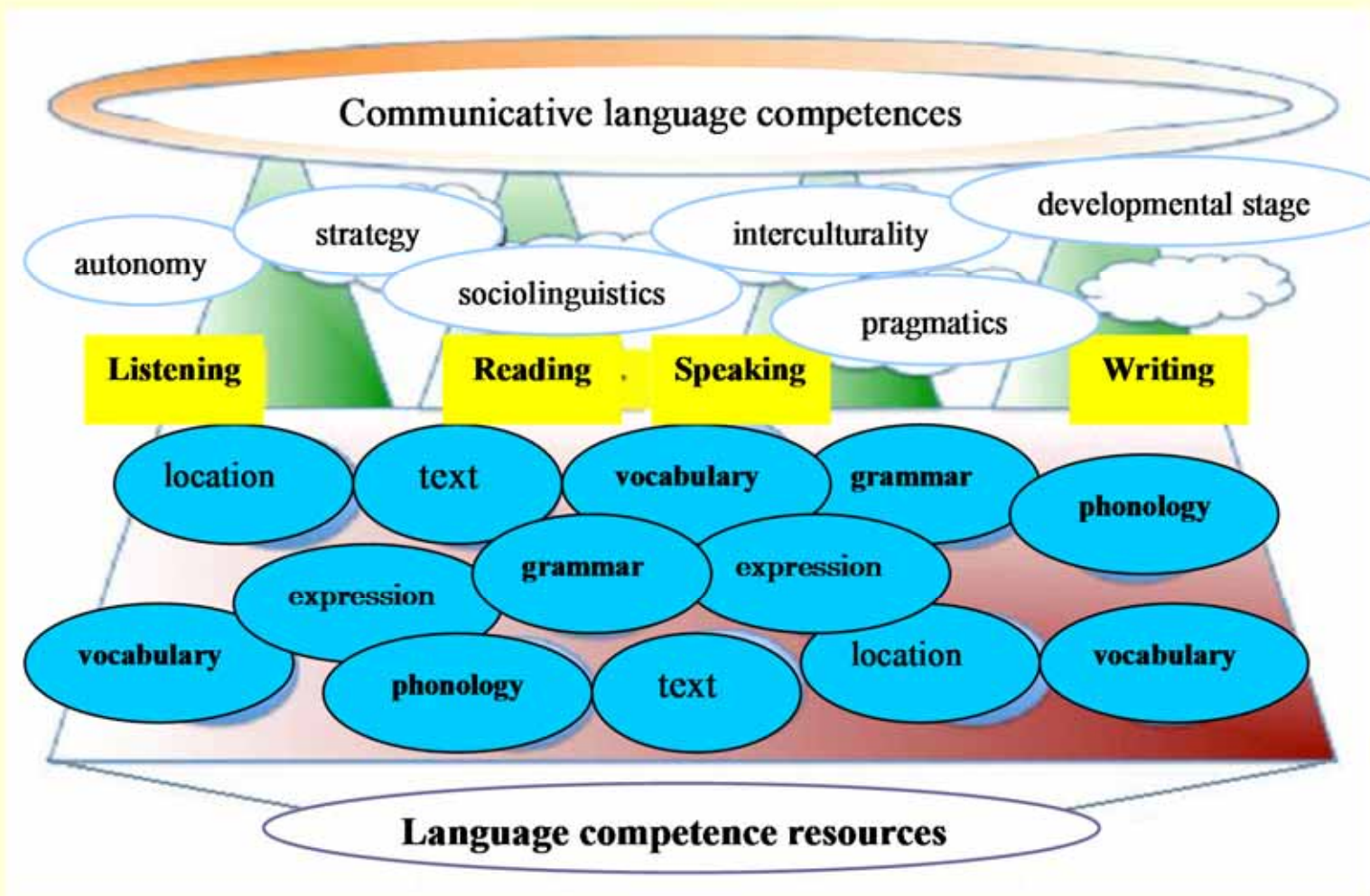
世界基準であるCEFRに準拠した、外国語（特に英語）運用能力に関する日本スタンダード（JS）の作成をめざすものである。

そのために、具体的に、日本に合うようにレベルを細分化、Can-do記述を体系化、語彙、文法、表現という言語材料を明示してディスクリプターを具体化する。その際、日本の社会的、文化的コンテキストを考慮する。

→ 4技能 × 12レベル設定の英語運用能力記述

JS: Communicative Language Competence の構成

(SASAJIMA, 2010)



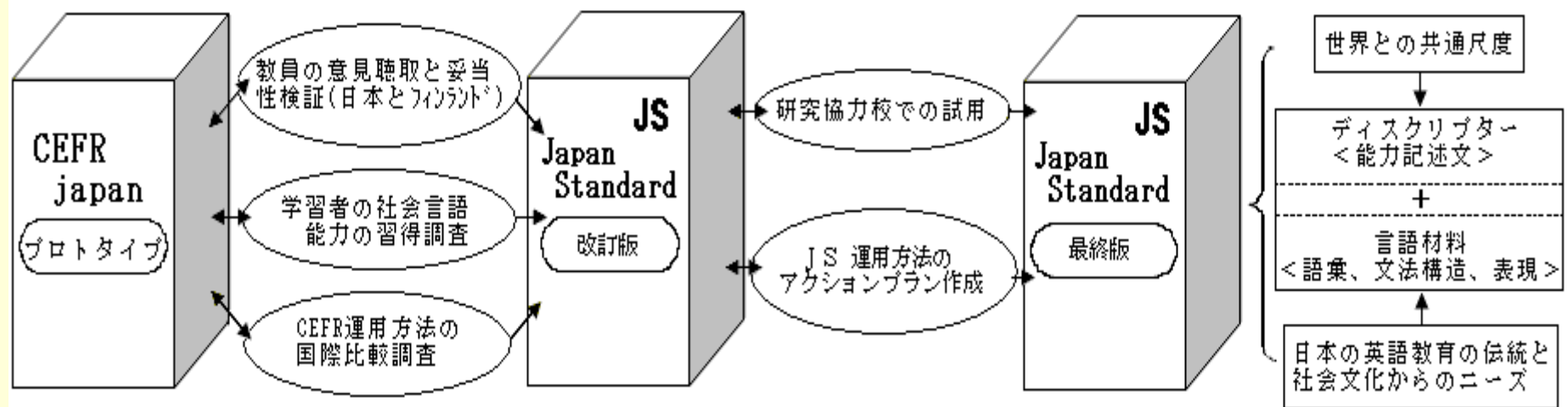
- CEFRjapan 素案 (小池科研 2008)の発展的研究
JS川成科研(No.22320108, 2010-2012)
- JSの枠組み
 - 1) ***Language Proficiency Scales (LPS)*** in the National Core Curricula in Finland, which is based on the CEFR.
 - 2) ***Cambridge Young Learners English Tests (YLE)***
by Cambridge ESOL.
- JS開発のアプローチ
 - ★ pre-CEFR exemplifications of objectives
(Threshold/B1, Waystage/A2, Breakthrough/A1, Vantage/B2).
 - ★ post-CEFR Reference Level Descriptors (RLD) developed for German, French etc and currently being developed English (English Profile (2012), CambridgeESOL).
 - ★ A Core Inventory(2010)
- JS開発の目標
CEFRに準拠して、日本の言語・文化・社会事情を考慮した
レベル設定および言語材料を提示する (目標言語を英語)

JSの言語(英語)レベル設定

レベル	CAN-DO ディスクリプター	言語材料 参照表
C2	CEFRとほぼ同じだが、 4技能に分けてレベル記述	
C1		
B2.2 B2.1 B1.2 B1.1 A2.2 A2.1 A1.3 A1.2 A1.1	CEFRの記述に準拠して、フィン ランド LPS (Language Proficiency Scale) を参考に、日 本の言語文化事情を考慮して、4 技能に分けて、レベル記述	語彙例 文法構造例 テキスト例
Pre-A1	日本の言語文化事情を考慮して、 独自に設定	別表

- 12レベル：C2～Pre-A1のように能力の高い方から提示
- 目標言語を英語として提示
- ディスクリプターを「聞く、話す、読む、書く」の4技能で提示
- 「言語材料参照表」を提示
語彙・文法構造・テキストの典型例（ディスクリプター理解が目的：B2.2～A1.1）
Pre-A1はさらに3レベルに細分化（別表扱い）

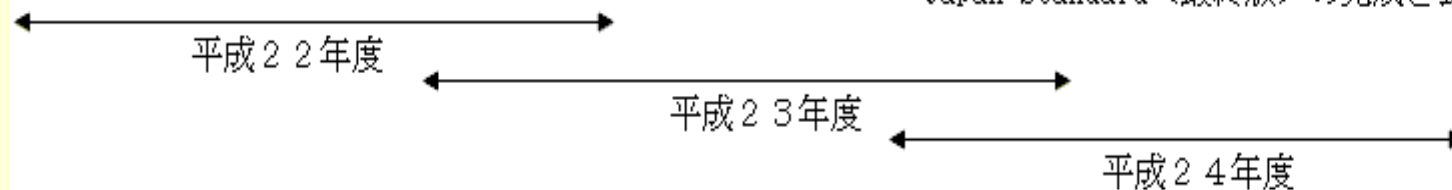
JSプロジェクトの全体像:



CEFRjapan<プロトタイプ>の改善と妥当性検証

→Japan Standard<改訂版>の試用

→Japan Standard<最終版>の完成と公開



JSプロジェクトの全体像:

1. ディスクリプター＋言語材料の明示

レベルの細分化・CAN-DO記述の体系化
ディスクリプターの具体化

2. 検証＋現場での教育効果確認

小学校・高等学校・(中学校)

→2013年3月「JS 2012(最終版)」の公開

最終報告会 開催・最終報告書 発行

<http://kawanarikaken.blogspot.jp>

JS→日本のEFLコンテキストへの適用

質的アプローチによる開発・検証

CEFR準拠・フィンランドに学ぶ・現場とタイアップ

- (1) ディスクリプターに包括性と一貫性
 - ☛ 4条件: 条件 + 話題・場面 + 対象 + 行動
 - ☛ 階層化: general/specific

- (2) 言語材料(語彙, 文法, 表現)を具体的に明示
 - ☛ 言語材料(RLD: reference level descriptors)精緻化

- (3) 高校教育現場での適応: ディスクリプター活用
 - ☛ JWUにおける授業実践(2012年度)

(4) きめ細かいPreA1設定：自律した学習者の育成

- ☛ 聖学院小学校での授業実践(2012年度)

(5) 中学校教育現場での適応：ディスクリプタ活用

- ☛ 都内私立中学校における授業実践(2013年度)

(6) 文化的味付け：大人interactive

- ☛ pragmatic レベルの情報 (eg. politeness)

** 将来にむけてのJS構想*

JSディスクリプター策定の指針

(1) ディスクリプターは4つの要素で構成する

- **条件** = このような条件が整っていれば
(ゆっくり話すなどの相手側の配慮、事前準備の有無など、
実現のための条件)
- **話題・場面** = このような話題に関して、このような場面・状況で
(日常的な話題、会議の場など、取り上げられる話題や、
言語活動が行われる場面)
- **対象** = この程度のもの(テキストタイプ、素材)を
(手紙や記事、ニュースや講義など、聞いたり、読んだり、
話したり、書いたりするもの)
- **行動** = この程度〇〇することができる
(聞いて理解する、読んで理解する、話す、書く、会話するなど、
実際の言語活動)

Can-do = 条件 + 話題・場面 + 対象 + 行動

B1 話し方が比較的ゆっくり
はっきりしていれば + 本人の関心ごとである
話題について + インタビュー、短い講演、ニュース
レポートなど多くのテレビ番組の + 内容をおおかた
理解できる

A2 映像が実況のほとんどを
説明してくれるならば + 出来事や 事故を伝える + テレビのニュース番組の + 要点がわかる

- 国際交流基金 「JF日本語教育スタンダード2010・利用者ガイドブック」の『Can-doの構造モデル』
- Dr.Sauli Takala, personal communication (2010)
- CoE's document: "*European Language Portfolio. Guide for Developers, 2004* ", especially Chapter 6 "*Developing calibrating, adapting descriptors*"

(2) ディスクリプターの記述内容／順序 の体系化 各論ディスクリプター & 総論ディスクリプターを設定する

- 1番目: 「**総論ディスクリプター**」 (General descriptor)
- 2番目以降: 「**各論ディスクリプター**」 (Specific descriptor)
- 語彙・文法などの制約、の順に

<JS, B12, Listening: **General descriptor** >

- 標準的なことばで発音もはっきりしていれば、自分の得意分野や興味あるテーマについて、日常生活や仕事の話のほかに、抽象的・文化的な話題についても、内容のポイントや概要を理解できる。

<JS, B12, Listening: **Specific descriptor** >

- 英語学習者向けの一般的な話題に関連するニュースやインタビュー、短い講義や講演、電話のメッセージなどを聞いて、内容の大部分を理解できる。
- ゆっくりはっきり話されたテレビ番組であれば、身近な内容から既知の時事問題などでも、要点や内容のほとんどを理解できる。
- 教科書などで使われる標準的な発音であれば、馴染みのない表現あっても、多少長くても、話された内容をほぼ正確に聞き取ることができる。
- 母語話者との具体的内容をとまなう対話では、あまりよく知らない話題になると、聞き取りに問題がある。

(3) 4技能の難易度決定要素の明確化による ディスクイプター記述内容の精緻化 ーバランスよく調整する

- 「聞く」
1. 音声認識
 2. 語彙・文法力
 3. スピード
 4. 話題
 5. 話者の多様性（出身地、年齢、教育程度、職業など）

- 「話す」
1. 「対話」と「発表」
 2. 内容(専門性、抽象度)・話題
 3. 場面
 4. 発音・イントネーション・アクセント（正確さ、流暢さ）
 5. 文法、語彙（正確さ、適切さ）

- 「読む」
1. 内容(専門性、抽象度)・話題
 2. テクストの種類
 3. 分量・スピード・読み方
 4. 表現

- 「書く」
1. 内容(専門性、抽象度)・話題
 2. 論理構造
 3. スタイル(文体)
 4. 文法、語彙、文章構成力

(4) JSの想定する学年対応モデル

→ ディスクイプターの難易度調整の指針

- *An ideal model of English proficiency levels coordinated with each school year, in the draft CEFRjapan (Kawanari, 2008)*

School Year	JS B2 Model
University 4	B22
University 3	B22 – B21
University 2	B21
University 1	B21 – B12
Senior high 3	B12
Senior high 2	B11
Senior high 1	A22
Junior high 3	A21
Junior high 2	A13
Junior high 1	A12
Elementary 6	A11
Elementary 5	Pre-A1
Elementary 4	Pre-A1
Elementary 3	Pre-A1

「理想的推定モデル」:
JSの想定する学年対応

韓国・中国・台湾

	Korea	China	Taiwan
Elementary 3	Pre-A1	Pre-A1	Pre-A1
Elementary 4	Pre-A1	Pre-A1	Pre-A1
Elementary 5	Pre-A1	Pre-A1	Pre-A1
Elementary 6	Pre-A1	Pre-A1	Pre-A1
Junior 1	A1	A1	A1
Junior 2	A2	A2	A2
Junior 3	A2	A2	A2
Senior 1	B1	B1	B1
Senior 2	B1	B1	B1
Senior 3	B2	B2	B2

フィンランド

Finland
A1.1
A1.2
A1.3
A1.3 A2.1 (S.W) (L.R)
A2.1
A2.2
A2.2 B1.1 (S.W) (L.R)
B1.1
B1.2
B2.1 (S.W.L.R)
B2.1 B2.2
B2.2
B2.2 C1
C1

日本(小3開始)

Japan-1 C1モデル		Japan-2 B2モデル
Pre-A1	Elementary 3	Pre-A1
Pre-A1	Elementary 4	Pre-A1
A1.1	Elementary 5	Pre-A1
A1.2	Elementary 6	A1.1
A1.3	Junior 1	A1.2
A2.1	Junior 2	A1.3
A2.2	Junior 3	A2.1
B1.1	Senior 1	A2.2
B1.2	Senior 2	B1.1
B2.1	Senior 3	B1.2
B2.1 B2.2	University 1	B1.2 B2.1
B2.2	University 2	B2.1
B2.2 C1	University 3	B2.1 B2.2
C1	University 4	B2

日本(小1開始)

Japan-1 C1モデル		Japan-2 B2モデル
Pre-A1	Elementary 1	Pre-A1
Pre-A1	Elementary 2	Pre-A1
A1.1	Elementary 3	Pre-A1
A1.2	Elementary 4	A1.1
A1.3	Elementary 5	A1.2
A1.3 A2.1 (S.W) (L.R)	Elementary 6	A1.3
A2.1	Junior 1	A2.1
A2.2	Junior 2	A2.1 - A2.2
A2.2 B1.1 (S.W) (L.R)	Junior 3	A2.2
B1.1	Senior 1	A2.2 B1.1 (S.W) (L.R)
B1.2	Senior 2	B1.1
B2.1 (S.W.L.R)	Senior 3	B1.2
B2.1 B2.2	University 1	B1.2 B2.1
B2.2	University 2	B2.1
B2.2 C1	University 3	B2.1 B2.2
C1	University 4	B2

:作成:

小池科研CEF班(2008)
川成美香(明海大学)

韓国・中国・台湾

	Korea	China	Taiwan
Elementary3	Pre-A1	Pre-A1	Pre-A1
Elementary4	Pre-A1	Pre-A1	Pre-A1
Elementary5	Pre-A1	Pre-A1	Pre-A1
Elementary6	Pre-A1	Pre-A1	Pre-A1
Junior1	A1	A1	A1
Junior2	A2	A2	A2
Junior3	A2	A2	A2
Senior1	B1	B1	B1
Senior2	B1	B1	B1
Senior3	B2	B2	B2

フィンランド

Finland	Japan-1 C1モデル		Japan-2 B2モデル
A1.1	Pre-A1	Elementary3	Pre-A1
A1.2	Pre-A1	Elementary4	Pre-A1
A1.3	A1.1	Elementary5	Pre-A1
A1.3-A2.1 (S.W)(L.R)	A1.2	Elementary6	A1.1
A2.1	A1.3	Junior1	A1.2
A2.2	A2.1	Junior2	A1.3
A2.2-B1.1 (S.W)(L.R)	A2.2	Junior3	A2.1
B1.1	B1.1	Senior1	A2.2
B1.2	B1.2	Senior2	B1.1
B2.1 (S.W.L.R)	B2.1	Senior3	B1.2
B2.1-B2.2	B2.1-B2.2	University1	B1.2-B2.1
B2.2	B2.2	University2	B2.1
B2.2-C1	B2.2-C1	University3	B2.1-B2.2
C1	C1	University4	B2

日本(小3開始)

日本(小1開始)

Japan-1 C1モデル		Japan-2 B2モデル
Pre-A1	Elementary1	Pre-A1
Pre-A1	Elementary2	Pre-A1
A1.1	Elementary3	Pre-A1
A1.2	Elementary4	A1.1
A1.3	Elementary5	A1.2
A1.3-A2.1 (S.W)(L.R)	Elementary6	A1.3
A2.1	Junior1	A2.1
A2.2	Junior2	A2.1-A2.2
A2.2-B1.1 (S.W)(L.R)	Junior3	A2.2
B1.1	Senior1	A2.2-B1.1 (S.W)(L.R)
B1.2	Senior2	B1.1
B2.1 (S.W.L.R)	Senior3	B1.2
B2.1-B2.2	University1	B1.2-B2.1
B2.2	University2	B2.1
B2.2-C1	University3	B2.1-B2.2
C1	University4	B2

(P.18と同内容を網掛けで示した)

JS 2012 ディスクリプター (日本語版)

JS 2012 ディスクリプター (英語版)

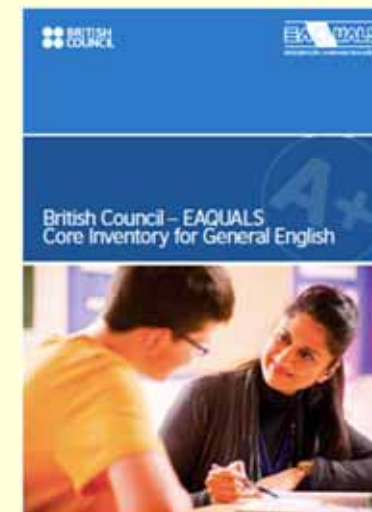
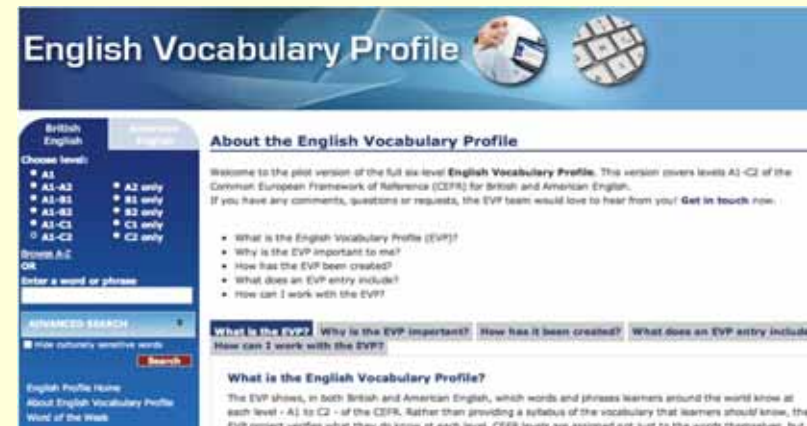
(5) 言語材料 (RLD: reference level descriptors) 精緻化の方法 → 「言語材料参照表」として提示

JSの当初の目的であった日本人学習者のための外国語学習スタンダードを示すために、最もニーズのある英語という言語に絞り、具体的に言語材料を提示することで、CEFRを効果的に教師や学習者が利用できるようにすることを目指した基本に立ち返り、一つの試案として、シンプルに具体的に言語材料の典型例を含んだ表を提示することとした。

フィンランドのカリキュラムに準拠した教科書から、語彙・文法項目を抽出し、English Profile, *A Core Inventory for General English* などに照らして確認し、最終的には、作成者側の経験に基づいて選定したもの

フィンランドの教科書

- Open Road 1, 2, 3 (出版社 Otava)(高等学校レベル)
→ B1.1～B2.2相当
- Spotlight 7, 8, 9 (出版社 WSOY)(中学校レベル)
→ A2.1～A2.2 相当
- Wow! 3, 4, 5, 6 (出版社 WSOY)(小学校レベル)
→ A1.1～A1.3相当



語彙と文法の提示の問題

- 語彙レベル→ [English Vocabulary Profile](#)
 - 学習者コーパスデータ等に基づき実証的に語彙をコロケーションとして提示し、CEFRレベルを個々の語彙の意味別に設定。
eg. have A1からC2まですべてのレベルを含む
 - 文法レベル→ [Guide for production of RLD \(CoE,2005\)](#)
 - 文法はコミュニケーションを目的とした記述とし、関連として能力 (competence)を示すことが大切
 - → [English Profile Information Booklet version 1.1\(2001:11\)](#)
発話例とともに文法項目を提示
 - → [A Core Inventory for General English](#)
場面や状況に応じてCEFRレベルを理解し学習に利用する趣旨で、Scenarioというアプローチを提示
- ★CEFRの柱 (teaching& learning)を明確に意識して作成★₂₃

Little (2008): コミュニケーション能力は普遍的ではなく、状況に応じて考える必要があり、社会文化や実用を意識し、言語活動やタスクを組み立て、そのためのストラテジーを提示しながら学習を考える必要がある
(CEFRの基盤)

→ **JS**は、言語材料の典型例を含む「言語材料参照表」を提示し、教師や学習者がJSを効果的に利用できることをめざした。

→ 日本では、学習指導要領で語彙・文法指導は欠かせない指導目標である。(各学校で)CAN-DOリスト作成する際には、ディスクリプターと関連して語彙・文法を提示し、コミュニケーション能力のレベルの理解に役立てることが有用ではないか。

JS 2012 ディスクリプター ＋ 言語材料参照表



JS

B1.1		聞く		LISTENING			
総論ディスクリプター		標準的なことばで発音もはっきりしていれば、学校、仕事、趣味などに関連するごく身近な事柄や話題について、内容のほとんどを理解できる。					
GENERAL DESCRIPTOR		Can generally understand clearly articulated standard speech on familiar topics regularly encountered in work, school, interest, etc.					
各論ディスクリプター		典型例 (TYPICAL SAMPLES)					
SPECIFIC DESCRIPTOR	得意 VOCABULARY	例 EXAMPLE	文法 GRAMMAR	例1 EXAMPLES	例2 EXAMPLES	テキスト(入力) TEXT PAGE	評価基準参考 ASSESSMENT
英語が聞き取れることには自信があるが、ニュースやテレビ番組、電話のメッセージなど、内容がすでに知られた話題に限定して英語を理解できる。	private	There are numerous private secondary schools available in Canada.	比較級 that	I recently had a dream that I was a girl.	When I was a girl, my mother told me that I was a little piece of blue sky that came into this world.	I have two favorite smartphone applications to learn English. Each also has a free version that you can start with and provides a substantial amount of learning before you need to buy the full version for further lessons. They are quite different and both are complimentary. I have found that I learn best when I get lessons the same concept in both. I don't want and I have found that to be true of language learning.	英語が聞き取れることには自信があるが、ニュースやテレビ番組、電話のメッセージなど、内容がすでに知られた話題に限定して英語を理解できる。
英語が聞き取れることには自信があるが、ニュースやテレビ番組、電話のメッセージなど、内容がすでに知られた話題に限定して英語を理解できる。	suffer	billions of Americans suffer from some form of heart disease.	It seems (Seems) (It) that	It seems that you are not logged in the site.	It happens that we meet together once every year.	It appears that the cause of death is the administration is unclear.	英語が聞き取れることには自信があるが、ニュースやテレビ番組、電話のメッセージなど、内容がすでに知られた話題に限定して英語を理解できる。
英語が聞き取れることには自信があるが、ニュースやテレビ番組、電話のメッセージなど、内容がすでに知られた話題に限定して英語を理解できる。	generation	The younger generation looks at things differently.	代名詞 that の動詞を主語とする	The police made an accidental hit a bottle of wine in the trunk of the car.	Four out of five people who are logged in.		英語が聞き取れることには自信があるが、ニュースやテレビ番組、電話のメッセージなど、内容がすでに知られた話題に限定して英語を理解できる。
英語が聞き取れることには自信があるが、ニュースやテレビ番組、電話のメッセージなど、内容がすでに知られた話題に限定して英語を理解できる。	and in	Opening an account (and) in conversation and with.	不定詞 (and) の動詞を主語とする				英語が聞き取れることには自信があるが、ニュースやテレビ番組、電話のメッセージなど、内容がすでに知られた話題に限定して英語を理解できる。
英語が聞き取れることには自信があるが、ニュースやテレビ番組、電話のメッセージなど、内容がすでに知られた話題に限定して英語を理解できる。	make friends with	I've made friends with a girl called Ann.	不定詞 (with) の動詞を主語とする	I see your friend changes.	No, that's not the case. I've been thinking about it for a while now and I'm still not sure.		英語が聞き取れることには自信があるが、ニュースやテレビ番組、電話のメッセージなど、内容がすでに知られた話題に限定して英語を理解できる。

このレベルを総合的に記述するディスクリプター

このレベルを個別に記述するディスクリプター

各個別ディスクリプターに該当と思われる語彙とその具体的な使用例を表示しているが、必ずしもそれに限定されるわけではない

各個別ディスクリプターに該当と思われる文法項目とその具体的な文を2例示したが、必ずしもそれに限定されるわけではない

文法項目が使われているテキスト例を示した。左の用例とこのテキストにより、文法から各論ディスクリプターのレベルを判断できるようにしてある

テキスト例に関連した評価基準の例を具体的に示した。これにより、各論ディスクリプターのレベルを判断する目安となる



JS	B2.2	聞く	LISTENING					
総論ディスクリプター		標準語で普通のスピードで話されれば、一般的、学問的、職業上、余暇に関する幅広い話題について、要点や流れを理解し複雑な内容をすくりに把握できる。						
GENERAL DESCRIPTOR		Can understand with ease the main idea of complex speech on general, academic, vocational, or leisure topics, provided the speech is delivered in a standard accent at normal speed.						
各論ディスクリプター		典型例 (TYPICAL SAMPLES)						
SPECIFIC DESCRIPTOR		語彙 VOCABULARY	例 EXAMPLE	文法 GRAMMAR	例1 EXAMPLE1	例2 EXAMPLE2	テキスト(タスク) TEXT (TASK)	評価基準参考 ASSESSMENT
学校などで耳にする標準的な発音であれば、講義やビジネスなどの場面で、複雑でも文構造が明瞭な発話をかなり理解できる。		disposal	Lots of waste disposal are scattered in the street.	接続語句	Subsequently he went into the post office looking for his postmaster.	It is moreover located at a central point in the City of Ghent's so-called	Once you have visited our web site and accepted our cookie, your ID number is automatically assigned to your computer whenever you surf our web site. Despite the fact that you remain anonymous until you enter personal information in the web site, the ID number allows us to log your session, so	典型例の英文のように、学校などで耳にする標準的な発音であれば、インターネット上のウェブサイトでの利用の認識に関して、多少込み入った内容でも、きちんと理解できる。

各論ディスクリプター			
SPECIFIC DESCRIPTOR		語彙 VOCABULARY	例 EXAMPLE
学校などで耳にする標準的な発音であれば、講義やビジネスなどの場面で、複雑でも文構造が明瞭な発話をかなり理解できる。	Can understand complex but clear, well-structured speech on business or lectures, provided the speech is delivered in a standard accent familiar in schools.	disposal	Lots of waste disposal are scattered in the street.
話の方向性が示されれば、でも、	Can catch much of discussions	compare	How heavy is the

接
助

文法 GRAMMAR	例1 EXAMPLE1	例2 EXAMPLE2	
接続語句 id	Subsequently he went into the post office looking for his postmaster.	It is moreover located at a central point in the City of Ghent's so-called cultural kilometer.	C is C ir tl o

助動詞 have cou	テキスト(タスク) TEXT (TASK)	評価基準参考 ASSESSMENT
	<p>Once you have visited our web site and accepted our cookie, your ID number is automatically assigned to your computer whenever you surf our web site.</p> <p>Despite the fact that you remain anonymous until you enter personal information in the web site, the ID number allows us to log your session, so that we may better assist you should you need some individualized service or support.</p>	<p>典型例の英文のように、学校などで耳にする標準的な発音であれば、インターネット上のウェブサイトでの利用の認識に関して、多少込み入った内容でも、きちんと理解できる。</p>
	I still have a job tonight. I managed to resist knocking out my manager at our	典型例の英文のように、多少個人的

JS

A1.1	話す	SPEAKING					
総論ディスクリプター	聞き手がこちらの事情を理解しはつきりとゆつくりと繰り返し話しかけてくれれば、自分自身に関する基本的な話題について、簡単な語句を用いて話すことができる。						
GENERAL DESCRIPTOR	Can describe his/her ideas on general topics related to personal concerns by using simple phrases, delivered directly to him/her in clear, slow and repeated speech by a sympathetic speaker.						
各論ディスクリプター	典型例 (TYPICAL SAMPLES)						
SPECIFIC DESCRIPTOR	語彙 VOCABULARY	例 EXAMPLE	文法 GRAMMAR	例 EXAMPLE	文 SENTENCES	テキスト(タスク) TEXT (TASK)	評価基準参考 ASSESSMENT
ごく身近で日常的な事柄についての簡単な質問 (名称、曜日、時刻、数)	father	He is my father.	数、色などの名詞	It's yellow.	I get up at six.	I'm ten years old. I go home at four. I have red shoes. I have two dogs. One is white and the other is black.	典型例の発話のように、ごく基本的な表現を使って自分のことを語る。

各論ディスクリプター

SPECIFIC DESCRIPTOR

語彙 VOCABULARY

例 EXAMPLE

ごく身近で日常的な事柄についての簡単な質問 (名称、曜日、時刻、数など) には、ごく基本的な表現を使って答えられる。

Can answer simple questions on everyday concerns familiar to him/her (e.g. names, days of the week, time, and numbers) by using expressions at threshold level.

father

He is my father.

表

自分自身や家族や友達のこと、住ま

Can participate in simple

four

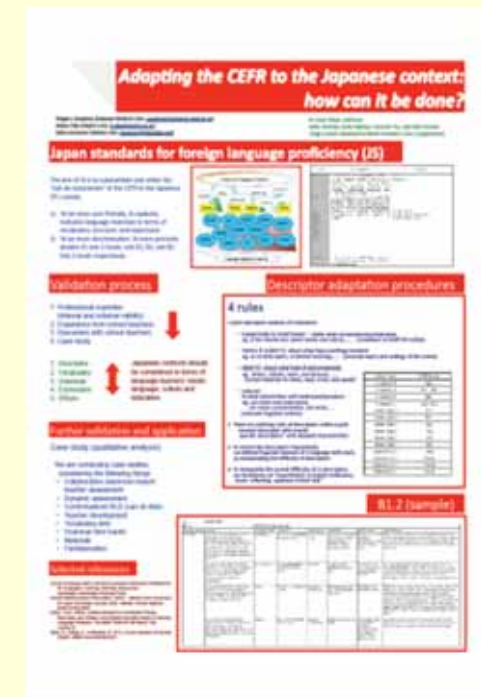
There are four

原

文法 GRAMMAR	例 EXAMPLE	文 SENTENCES	
数、色などの名詞	It's yellow .	I get up at six .	
テキスト(タスク) TEXT (TASK)		評価基準参考 ASSESSMENT	
I'm ten years old. I go home at four . I have red shoes. I have two dogs. One is white and the other is black .		典型例の発話のように、ごく基本的な表現を使って自分のことを話せる。	
Good taste! Nice dress! Lovely! No way! Looks nice!		典型例のような定型表現を使って、短く	

JS成果発表

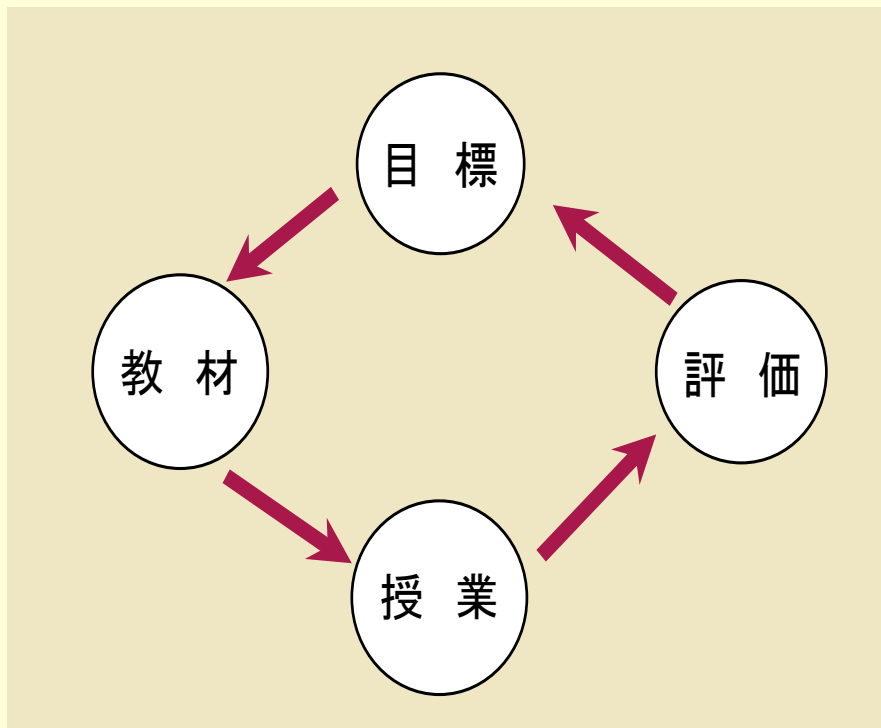
2010. 12 「川成科研中間報告会」
2011. 8 AILA 2011, Beijing, China
2011. 8 JACET 2011, Fukuoka
2011. 11 「全国私立大学付属・併設中学校
・高等学校 教育研究会」
2012. 5 EALTA, Innsbruck, Austria
2012. 8 JACET 2012, Nagoya
2013. 3 「川成科研最終報告会」『最終報告書』
2014. 3(頃) 『JS書籍』発行予定



JS 教育現場での実践

日本女子大学附属高等学校
～Bレベルの実践～


JSを活用すべき4つのフェーズ



JSを用いて行ったこと

年間指導計画の作成
教材の作成・選定
授業
テストの作成と評価

Step 1 指導目標の現状把握

 各科目のこれまでの指導目標が、JSのどのレベルに属しているかを確認する。

例. < 「ライティング」の科目構成 >

●2年次:

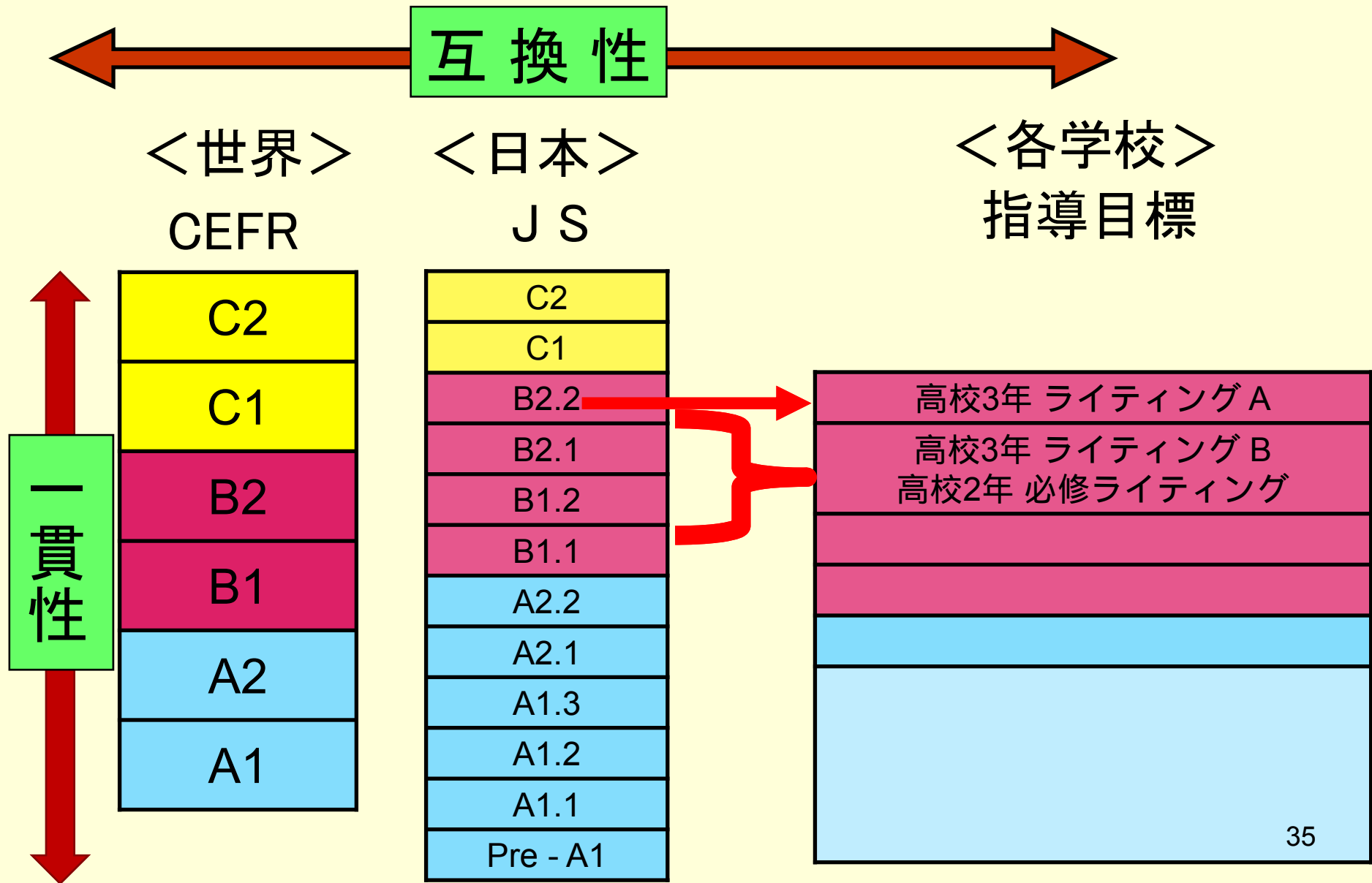
ライティング(1単位:必修)

●3年次:

ライティングA (2単位:選択)

ライティングB(2単位:選択)

◆現場におけるJSの活用 その1: 指導目標の現状把握



◆ JS活用のステップ

Step 1 指導項目の現状把握

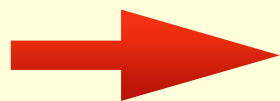
Step 2 指導目標のスマールステップ化

2-1 該当するJSディスクリプターを、構成要素に分析・分解する

2-2 指導目標の下位項目を設定する

JS活用のための
基礎工事

Step 3 年間指導計画の作成



Step 2-1, 2-2で分解、設定された指導項目を選別し、並べ替える。

◆ JS活用のステップ

Step 4 教材の選定・作成

➡ 年間指導計画で示されたスモールステップを達成するための教材を選定、または作成する。

Step 5 指導法の選定・開発

➡ Step 4で作成された教材を使って、実際に授業をするための指導法を選定・開発する。

Step 6 テストの作成と評価

➡ 該当するJSディスクリプターを基に評価規準を立てる

◆ JS活用の6つのステップ

Step 1 指導項目の現状把握

Step 2 指導目標のスモールステップ化

Step 3 年間指導計画の作成

Step 4 教材の選定・作成

Step 5 指導法の選定・開発

Step 6 テストの作成と評価（生徒の自己評価含む）

◆ まとめ

◎ JSを英語教育の4つのフェーズ(目標・教材・授業・評価)で活用した結果……

- 1 教員同士が、指導目標を共有することができた。
- 2 教材の選定や作成の際の基準を得られた。
- 3 教員間の指導法における個性を尊重できた。
- 4 テストを採点、添削する際の指標を得られた。
- 5 生徒に英語学習の目標を提示することができた。

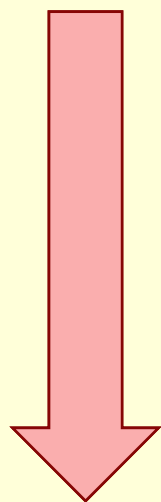


現場の実践を通して、JSの有効性が確認された。

● JS活用のイメージ

Step 1&2

川上



川下

目標

Step 3

教材

Step 4

授業

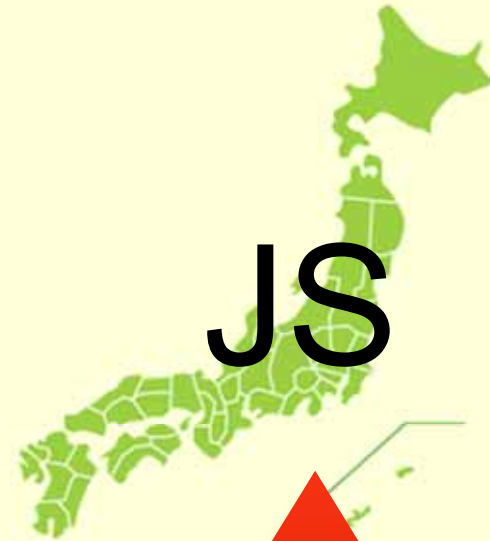
Step 5

評価

Step 6

◆ JS 現場での活用のイメージ

指導目標

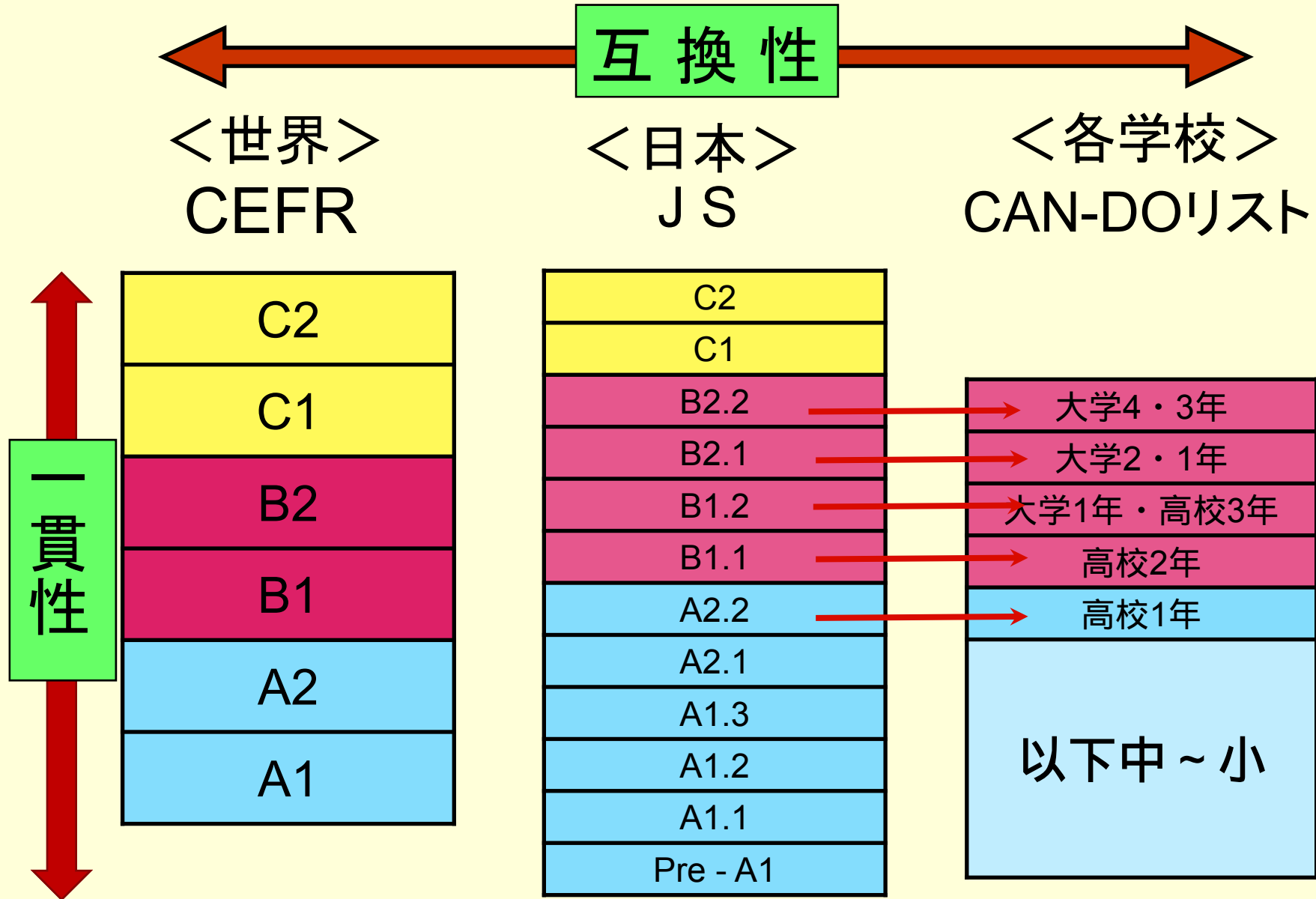


カリキュラム

教材
授業
評価



◆ JSを活用した日本の英語教育グランドデザイン



JS 教育現場での実践

聖学院小学校

～PreA1 レベルの実践～



JS : Pre A1 作成の経緯

「共通参照レベル (Pre A1)」 の検討と3つの提案

1) 継続的に対応できる低学年 からの共通参照レベルが必要

- ・ 配布教材の変更があっても対応できる
- ・ 低学年から開始しても対応できる

2) 文字の導入

- ・ コンピューターの普及
文字によるコミュニケーション
の重要性
- ・ 低学年からのリテラシー教育
(低学年の児童も楽しく読み書きを
している)

3) 内容言語統合学習 (CLIL) 導入の提案

- ・ 日本語で学習した内容を
英語でも学習することで
2つの言語の楽しさに触
れることができる
- ・ 会話のやりとりを深めら
れる

JS: Pre A1の作成手順

教材リサーチおよび資料作成



長年の経験

既存のカリキュラム（実践に基づいて作成）



JS: Pre A1の作成

JS: Pre A1

• • の表について

1) Interactionについて

SpeakingとInteractionを同じ項目とした

- Interaction 1 「質問ができる・答えられる / 対話ができる」
- Interaction 2 「質問がわかる・答えられる」

2) 評価記入法について

- 達成度に応じた評価方法

3) テストについて

- 児童の理解度の把握
- 授業を進める上での参考

JS 2012 PreA1
+
3レベル ①②③ (別表)

聖学院小学校の英語教育

リスニングをベースにした4スキルズの育成

- 1) コミュニケーションを楽しみながら、
4スキルズを身につける

 - 2) 異文化を理解する・体験する
日本の文化・習慣を発信する

 - 3) 他教科の内容を学習する
 - 海外や日本の簡単な物語を楽しむ・音読する・演じる
 - 歌詞を読み、歌う
- ★ 聖学院小学校では、このようにコミュニケーションを楽しみながら、中学一年生程度の文型が身につくようにしている⁴⁸

低学年クラス

CLILの導入

- ◆1年生 朝顔の栽培（生活科）
- ◆2年生 大豆の栽培（生活科）
- ◆3年生 蝶の一生（理科）

リテラシー

- ◆1年生 アルファベット／フォニックス
- ◆2年生 本の暗唱（25冊）／書写／ミニブック作成
- ◆3年生 歌詞を読みながら歌う／自分のノートの作成

JS 教育現場での実践

都内私立A中学校
～Aレベルの実践～

2013年度現在進行中

Can-do リストは、英語の授業をどう変えるか？

- 説明中心の授業から活動中心の授業になる。
- 日頃の地道な文法・語彙などの指導を、コミュニケーションの場面と結びつけて考えることができる。
- 教員同士で指導目標を共有できる。
- 教員間の指導法の違いを尊重できる。

- 教員と生徒が、指導目標を共有できる。

- 生徒は、学習活動の意義（英語で何ができるようになるために学習しているのか）を認識でき、モチベーションが上がる。
- 生徒は、自己評価表（ふりかえり）やポートフォリオにより、自立した学習者になれる可能性がある。

国としての学習到達目標を能力記述文(Can-doリスト)の形で 設定することの意義と課題

- ・学習指導要領に基づき、国が生徒に求められる英語力を「CAN-DOリスト」の形で設定すれば、各学校はそれを参照して、学習指導要領の内容を踏まえ、かつ各学校のレベル・状況に応じた指導方法や評価方法の工夫・改善をよりしやすくなる。
- ・国がCEFRのレベル設定に準拠して「CAN-DOリスト」の形で英語力の指標を設定すれば、それは、グローバル化に対応する英語コミュニケーション能力を目指すことになり、ひいては日本人全体の英語力の向上に資するであろう。
- ・小・中・高等学校で一貫性のある国の学習到達目標が設定されれば、小・中・高で連携した英語の一貫教育が実現し、さらには高等教育や生涯教育でのより高度な英語力向上が見込まれるであろう。

・そのためには、小学校3年からの学習到達目標を「CAN-DOリスト」の形で手厚く設定することが必要であろう。それと共に教材・教授方法・評価方法なども併せて提示することが必要ではないか。
(教員養成を含め、小学校英語教育システムの充実)



・「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」における「新たな英語教育」の目標レベル設定(高校でB2)はかなり高い。英語先進国(アジア近隣諸国、欧州)と同じである。これらの国々では小3からの英語教育が開始されて10年以上が経っている。

・中・高等学校での、国としての「CAN-DOリスト」設定には、ディスクリプターだけではなく、学習指導要領と関連させた形での、語彙・文法項目やテキストの提示が必要ではないか。現実には、ディスクリプターだけでは現場では応用しづらい。

・国としての学習到達目標を「CAN-DOリスト」の形で設定したのちは、研修会をさらに幅広く実施することが必要であろう。

＜参考＞ 中国の英語教育

「全日制義務教育 普通高級中学英語課程標準(実験稿)」(2001)

基本理念

- 1)すべての生徒の素質を伸ばす教育を重視する。
- 2)初等中等教育での一貫した目標を定め、柔軟かつ適切に遂行する。
- 3)生徒を主体として個性を尊重した指導を行う。
- 4)タスク中心の授業形式で言語運用能力を高める。
- 5)学習プロセス評価を重視し、生徒の自主的な学習能力を高める。
- 6)音声、テレビ、雑誌、インターネットなどを含めた豊富な教材を開発、利用する。

総合的な言語運用能力の養成

- 1)言語技能
- 2)言語知識(発音、文法、語彙など)
- 3)文化理解(異文化コミュニケーション理解と能力、文化的知識)
- 4)学習ストラテジー(認知、メタ認知、コミュニケーション、教材リソース活用ストラテジー)
- 5)意欲・態度(国際理解、愛国心、協調性、自信、意欲など)、の5つの領域

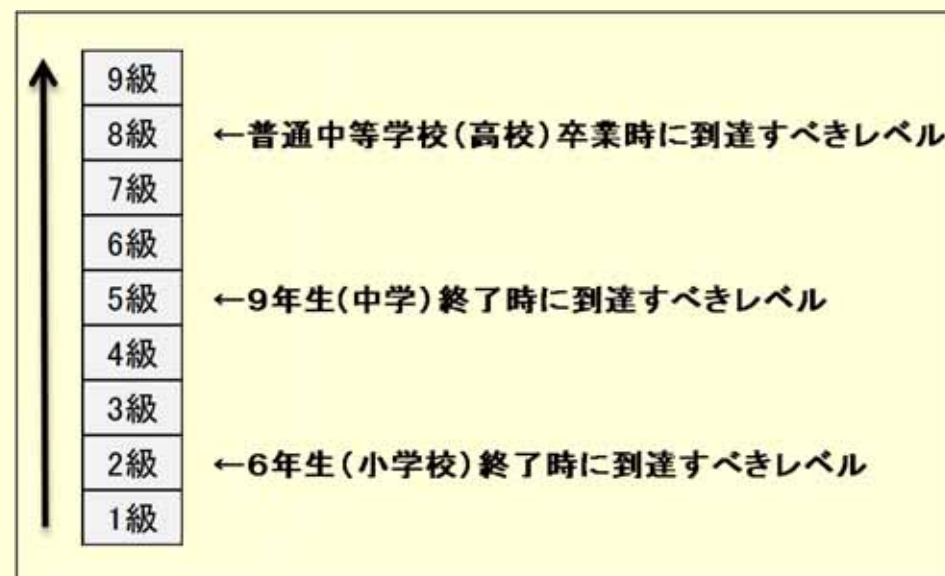
小池科研(2005)中国(上海・北京)英語教育視察訪問

2005/9/11～18 小池生夫、尾関直子、川成美香

視察目的と訪問先

- 1) 中国の英語教育トップ・リーダーに、中国の英語教育政策がどのように進むのかをインタビューする
- 2) 中国の学校現場を視察する
- 北京師範大学外国語学院英語科、北京外国語大学英语学院、北京日本学研究中心、北京師範大学第2付属高校、北京第66中学、北京東四9条小学校、上海復旦大学英语教学部、上海交通大学、同全国大学英语四・六級考查委員会、同附属子弟小学校

英語課程レベルの目標設定



<注>普通中等学校卒業時に到達すべきレベルは、「全日制義務教育 普通高級中学英語課程標準(実験稿)」(2001)により、2005年視察当時は上記のように8級であったが2014年現在は、7級となっている。

総合的な言語運用能力

レベル	目標の概要
2級	英語学習に持続的な興味を持ち、簡単な英語で挨拶し、個人、家庭、友人に関する簡単な情報を交換することができる。学習した内容を用いたミニ対話や歌に合わせての動作、図や絵を見て簡単な物語の聞き取り、簡単な物語の読み取り、復唱などができる。図、絵、指示などにより簡単な文を書くことができる。学習に積極的に参加し、協力して異国の文化や風俗を理解する。
5級	比較的明確な学習動機と積極的、自主的な学習態度を身につけている。身近な話題に関して教師の述べていることが分かり、また討議に参加できる。日常生活の様々な話題について他人と情報を交換し、自分の意見を述べることができる。7～9年生向けの平易な本や雑誌を読むことができ、分からない単語があっても、話の概要を理解できる。読解の目的に合わせて適切な読解ストラテジーを使うことができる。ヒントに基づき、短い文を書き、自分で誤りを修正することができる。人と共同して問題を解決し、結果を報告し、学習課題をやり遂げることができる。学習の自己評価ができ、学習方法を修正することができる。多種多様な教材を利用して学習できる。文化差異の理解と認識をさらに深める。
8級	比較的強い自信と自主的に学習する能力を持つ。身近な話題について英語で自然に会話をすることができる。話し言葉や書き言葉の内容について自分の主張を述べることができ、その場で短い文章を書くことができる。言語活動（例：計画作成、実験と調査結果の報告）を自主的に計画し、行うことができ、インターネットなどの様々な教材を効果的に利用し、情報を取得したり処理したりすることができる。自主的に学習効果を評価し、有効な英語学習ストラテジーを使うことができる。コミュニケーションに必要な言語の文化や背景を理解し、異文化を尊重し、寛容な態度を身につける。

言語技能「話す」ことの到達目標

レベル	目標の概要
2級	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発音が明瞭でアクセントが適切である。 2. 身近な人と家庭について会話を行うことができる。 3. 日常生活の用語を使うことができる。(挨拶、送別、お礼を言う、謝るなど) 4. 教師の手助けで簡単なスキットを行うことができる。
5級	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平易な話題について、情報を提供したり、自分の意見を簡潔に述べたり、ディスカッションなどができる。 2. 人とコミュニケーションを行い、共同して課題を達成できる。 3. 口頭表現において、適切に自己修正して言い直すことができる。 4. 情報を的確に聞き、分からないと聞き返すことができる。 5. 話題や場面に応じて対話を行うことができる。 6. 英語でスキットを演じることができる。 7. 上記の活動の中で、自然なアクセント、イントネーションを使うことができる。
8級	<ol style="list-style-type: none"> 1. 適切なイントネーションとリズムで話すことができる。 2. 学習課題に基づき、計画を話し合っって作成できる。 3. 実験と調査研究の過程や結果を報告できる。 4. 一般的な話題に関し、準備して3分間のスピーチを発表することができる。 5. 日常のコミュニケーションの中で、言語を有効に用いて表現することができる。例えば、意見を述べる、判断を行う、叱る、抗議など。 6. 日常生活の通訳ができる。例えば、外国人とのショッピング、観光案内など。

出所: 緑川・笹島 2003: pp.162-167.